

【開催概要】

テーマ	第 1 回佛教大学教育開発研究会 『生成 AI を活用した教育の可能性』
開催日時	2023 年 8 月 24 日 (木) 14:00 ~ 9 月 22 日 (金) 17:00
開催方法	オンデマンド
講師	谷本 和也 (社会学部現代社会学科 講師/情報推進室長)

【報告】

第一章では、Chat GPT の仕組みや特徴について述べられた。

Chat GPT とは、人間のように対話・質疑応答できる AI である。事前に学習しているデータから答えを探し、人間が入力した文自体を理解するのではなく、次に続く確率が高い単語を探し、適切な答えを導くとされている。

第二章では、実際に Chat GPT に問題を解かせた事例が紹介された。

就活生の面接官役を Chat GPT が担い、ロールプレイを行った例では、プロンプト (命令文) を入力する際に、要素として、文脈 (命令に関する背景やなりきってほしいキャラクターなど)、命令 (実行したい内容と文字数や条件などをあわせて指示する)、入力データ (考察したいデータや要約したい文章など対象となるデータ)、出力指示 (表形式での出力や、リスト形式での出力などを選択) などを具体的に指示することで、より詳細な結果が得られ、面接さながらの質疑応答が可能となった。

第三章では、生成 AI を活用した教育の可能性として、生成 AI をめぐる議論について説明された。

生成 AI について、未経験、初学者である学生が生成 AI に頼り切って、生成 AI から導き出された結果を鵜呑みにすることで、成長機会が喪失することが懸念されるとした。一方で熟練者は、生成 AI と対話することで、自身のアイデアをより深掘りできるようになる可能性があるとした。

最後に、学生が生成 AI を使用する際は、初めに基礎的な知識を学ぶことが重要であり、あくまでも生成 AI は副操縦士役であり、パイロット役である我々の知識、思考、意思決定が重要であると述べられた。

【開催概要】

テーマ	第 2 回佛教大学教育開発研究会 『卒後 7 年、卒業生は学生生活をどのように振り返り 採用企業は佛教大学へ何を求めているのか』
開催日	2024 年 1 月 17 日（水）16：30～17：40
開催方法	対面
講師	株式会社 リアセック様

【報告】

株式会社リアセック様より、卒業生アンケート調査（2022 年度）の結果報告がされた。ポートフォリオを用いて学部別で比較され、「科目ごとの学習熱心度と役立ち度」や「活動ごとの取組熱心度と満足度（正課、正課外、就職活動、アルバイト）」などのアンケートでは、全学部で高い数値であったことが述べられた。

次に、卒業生に対して「社会に出てどのような力が必要であったか」の項目に関して、コンピテンシーといわれる対人基礎力や親和力・協働力が全体的に高かった。こういった力は在学中にしっかりと身に付けることができたと答えた卒業生が多く、社会でもその力を発揮できていると感じていた。一方で課題となったのは、気持ちを制御する能力、PC スキルであると述べられた。

「大学生活満足度・本学推奨度分析」の項目では、約 8 割の学生が大学生活に満足している結果で、満足度が高いほど本学推奨度も上がっていくことが示された。

また、注目すべき点は、満足していると答えた学生は、在学中に教職員へのキャリア相談などを行っており、教職員との親密度も満足度と相関関係にあると考えられることが示された。

以上のアンケート結果より、他大学と比較しても、在学中に培った能力や経験が社会に出てから役に立っていると実感している卒業生が多いことが分かった。

続いて、企業調査・結果報告書（2022 年度）では、採用企業が新卒者に求める能力とはどのようなものなのか述べられた。結果は、親和力・協働力・行動力・持続力など、本学の卒業生が身に付けることができたと答えた力と合致していることが分かった。

一方で、今後のカリキュラムに期待する点に関して採用企業は、課題解決型（PBL 型）の教育であると述べられ、学生発信で課題を見つけ解決することで解決能力や実践能力を高める教育施策が重要であると述べられた。

最後に教職員からリアセック様への質疑応答があり、会議は終了となった。